

検討中案

箕面市人口ビジョン

目次

1. 人口動向分析	2
(1) 人口動向.....	2
① 地域別の総人口及び年齢4区分別人口推移.....	2
② 市全体の自然動態（出生、死亡）	7
③ 市全体の社会動態（転入、転出）	8
(2) 市全体の就業状況	12
① 業種別就業者数、昼夜間人口比率の時系列の状況	12
② 通勤通学状況の分析	13
(3) 市全体の定住・移住意向	15
① 社会動態（純転入数）の時系列の状況	15
2. 将来人口の推計と分析	16
(1) 推計方法.....	16
(2) 推計結果.....	21
① 人口減少	21
② 子育て層の減少	22
③ 高齢化.....	23
④ 人口減少・少子高齢化の影響.....	24
3. 人口の将来展望.....	25
(1) 目指すべき将来の方向	25

1. 人口動向分析

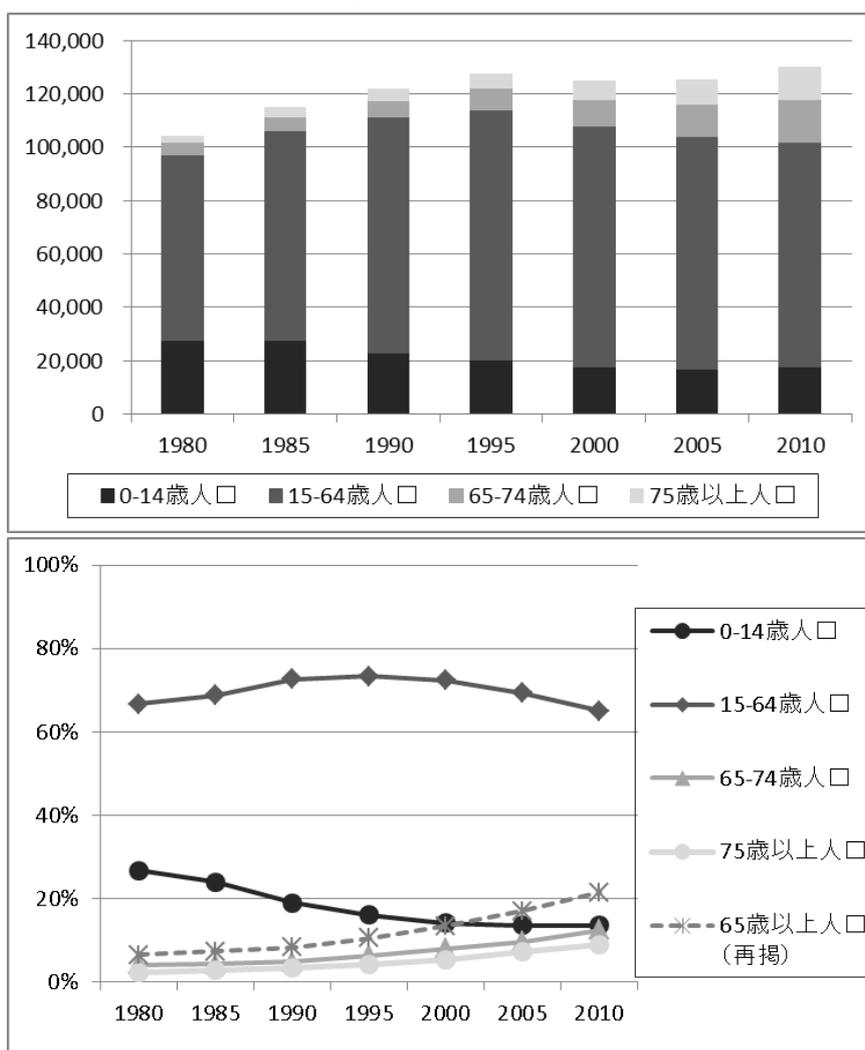
時系列による箕面市の人口動向や年齢階層別の人口移動分析を行う。

(1) 人口動向

① 地域別の総人口及び年齢4区分別人口推移

総人口は1990年以降12万人前後で若干の増減を繰り返し、直近の2010年では増加している。年齢4区分別に人口の推移をみると、65-74歳人口及び75歳以上人口は増加傾向にある。また、0-14歳人口は微増している。

図表 1-1 箕面市の総人口及び年齢4区分別人口推移
(上段：実数(人)、下段：構成比)

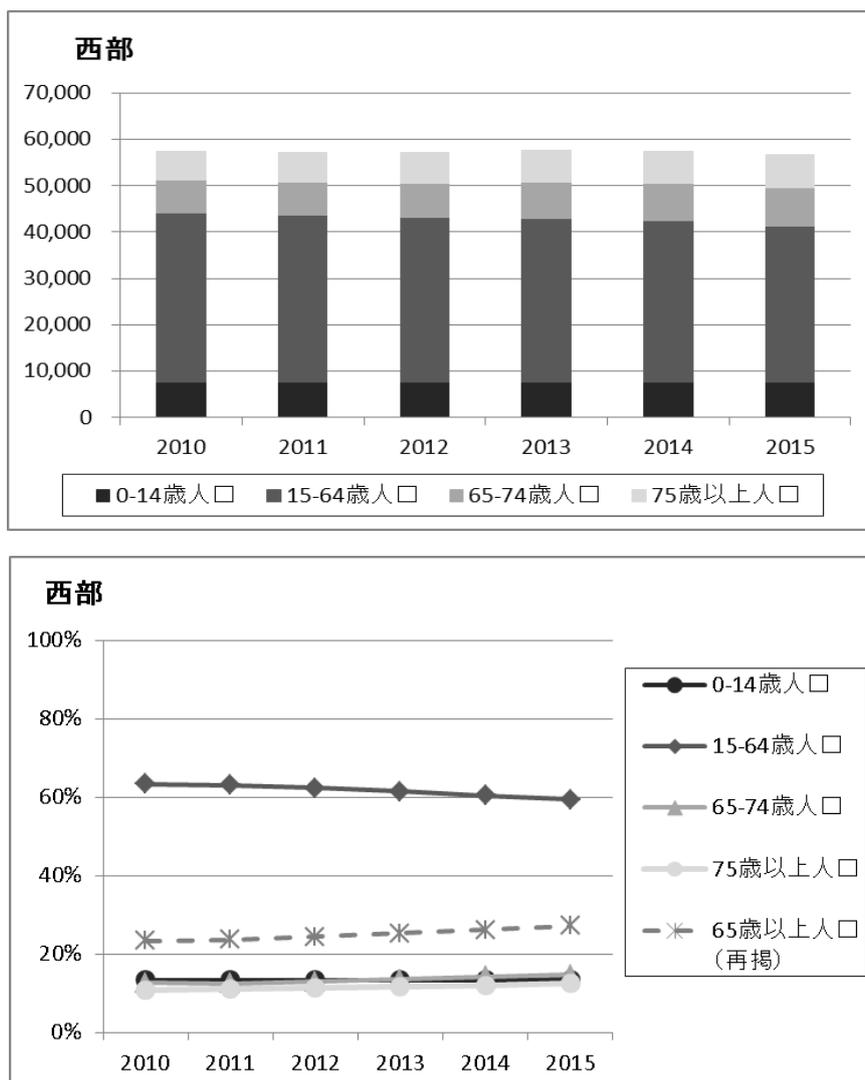


出典：総務省「国勢調査」

地区別の住民基本台帳に基づく人口により直近の傾向を把握する。

西部地区における日本人人口の推移をみると、2010年から2015年まで大きな増減はみられない。年齢4区分別人口の構成比の推移をみると、0-14歳人口、65-74歳人口、75歳以上人口は同程度の割合を占める。

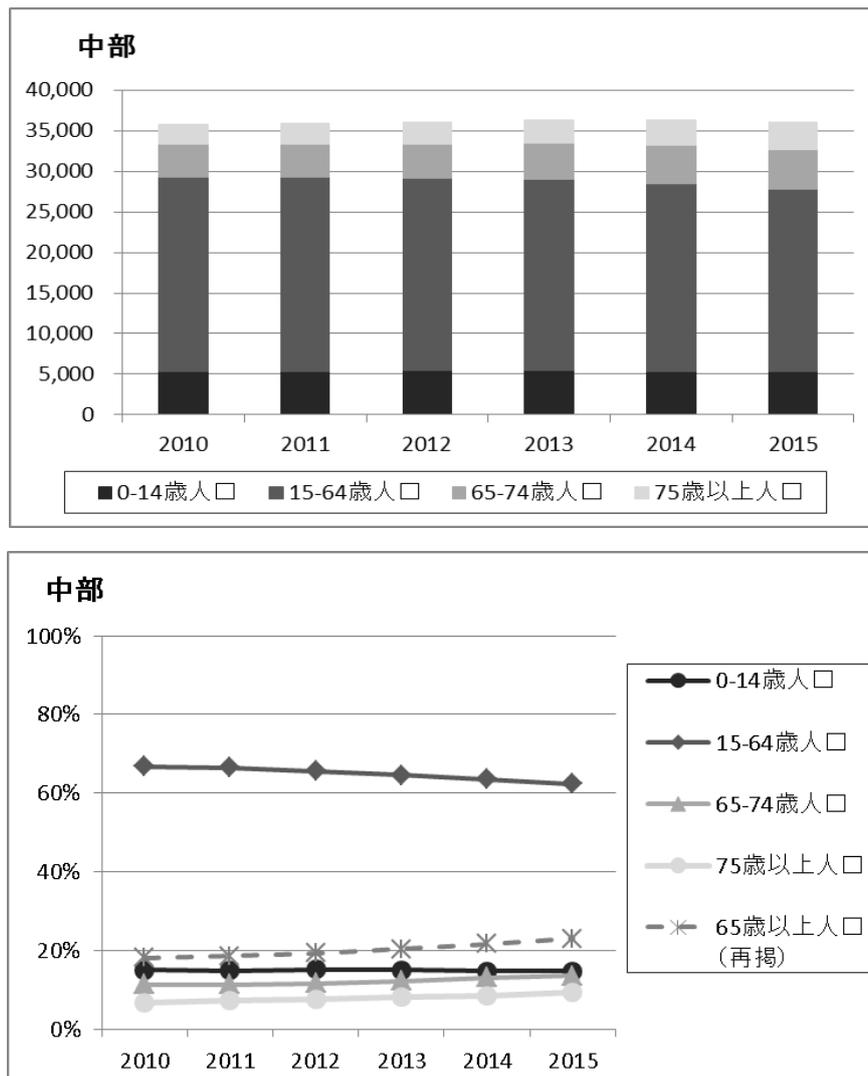
図表 1-2 西部地区の日本人人口及び年齢4区分別人口推移
(上段：実数(人)、下段：構成比)



出典：箕面市提供データ（住民基本台帳に基づく人口）

中部地区における日本人人口の推移をみると、2010年から2015年まで大きな増減はみられない。年齢4区分別人口の構成比の推移を各年齢区分別に比較すると、0-14歳人口と15-64歳人口で微減、65-74歳人口及び75歳以上人口は微増している。

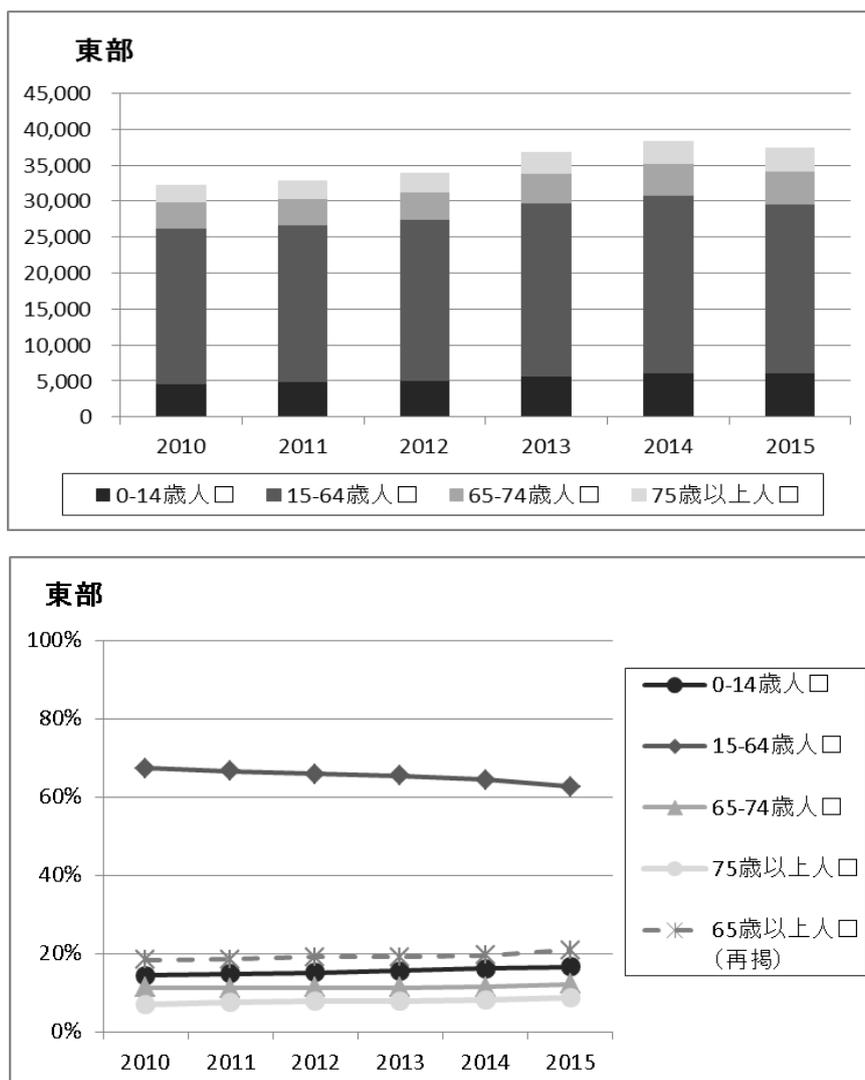
図表 1-3 中部地区の日本人人口及び年齢4区分別人口推移
(上段：実数(人)、下段：構成比)



出典：箕面市提供データ（住民基本台帳に基づく人口）

東部地区における日本人人口の推移をみると、2010年から2014年まで増加傾向であり、2014年以降は減少傾向となっている。年齢4区分別人口の構成比の推移を各年齢区分別に比較すると、0-14歳人口が微増し、15-64歳人口の減少幅も比較的小さい。

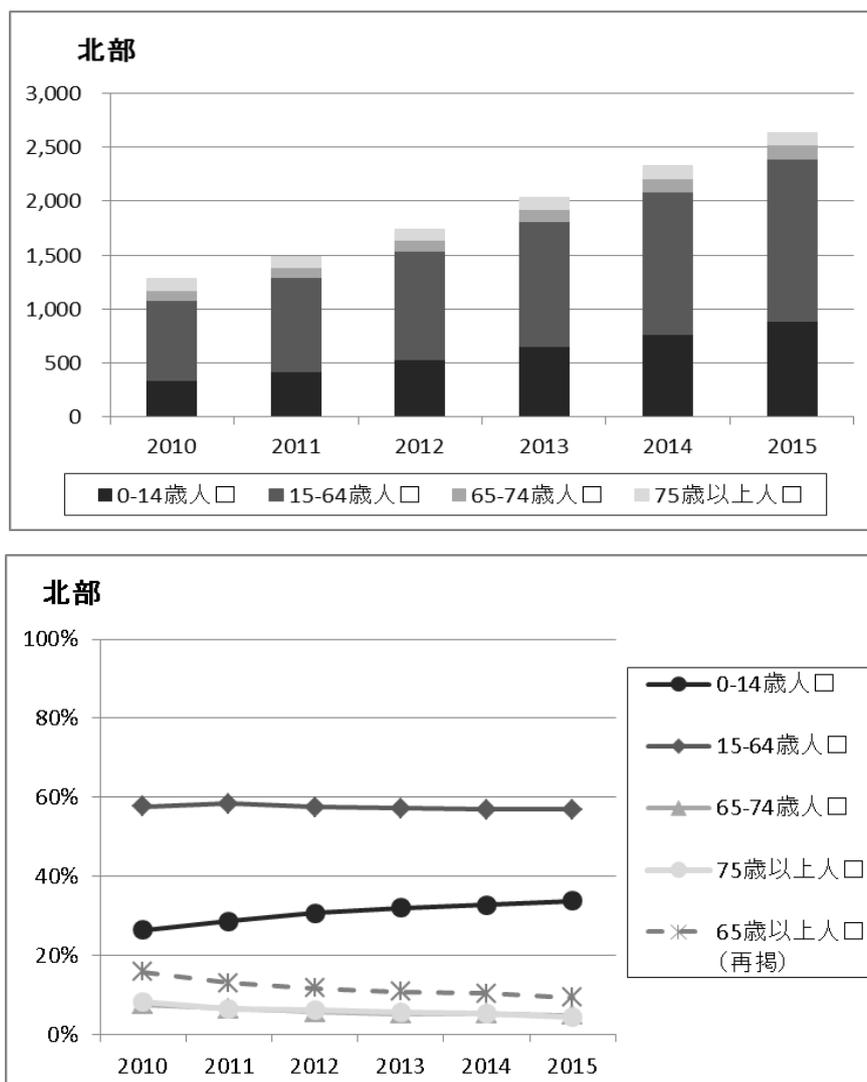
図表 1-4 東部地区の日本人人口及び年齢4区分別人口推移
(上段：実数(人)、下段：構成比)



出典：箕面市提供データ（住民基本台帳に基づく人口）

北部地区における日本人人口の推移をみると、2010年から2015年まで増加傾向である。年齢4区分別人口の構成比の推移を各年齢区分別に比較すると、0-14歳人口が増加し、15-64歳人口も微減に留まり、65歳以上人口が減少する等、高齢化が抑制されている。

図表 1-5 北部地区の日本人人口及び年齢4区分別人口推移
(上段：実数(人)、下段：構成比)



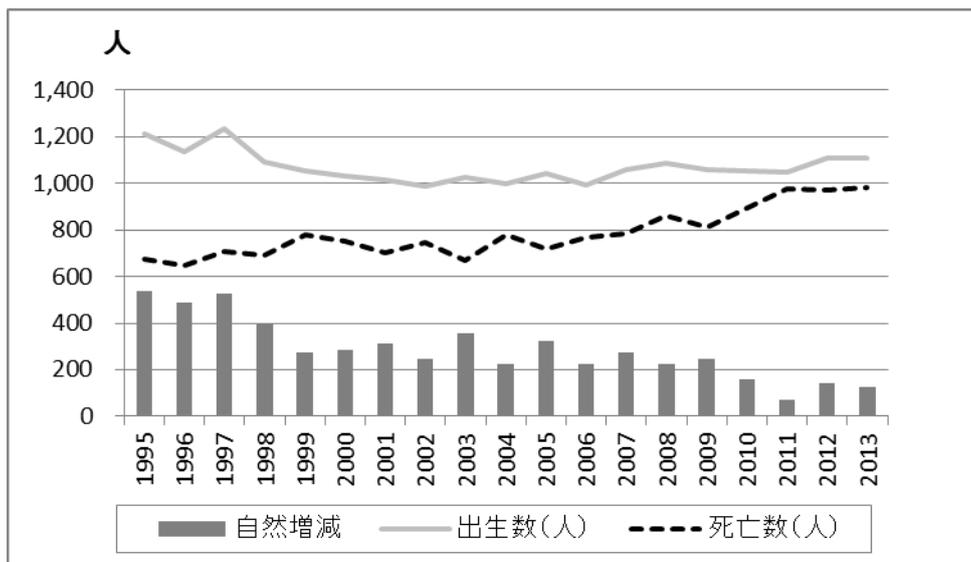
出典：箕面市提供データ（住民基本台帳に基づく人口）

② 市全体の自然動態（出生、死亡）

1995 年以降の自然増減をみると減少傾向にある。死亡数は増加傾向にあり、出生数は 2002 年頃まで減少して以降は回復傾向にある。

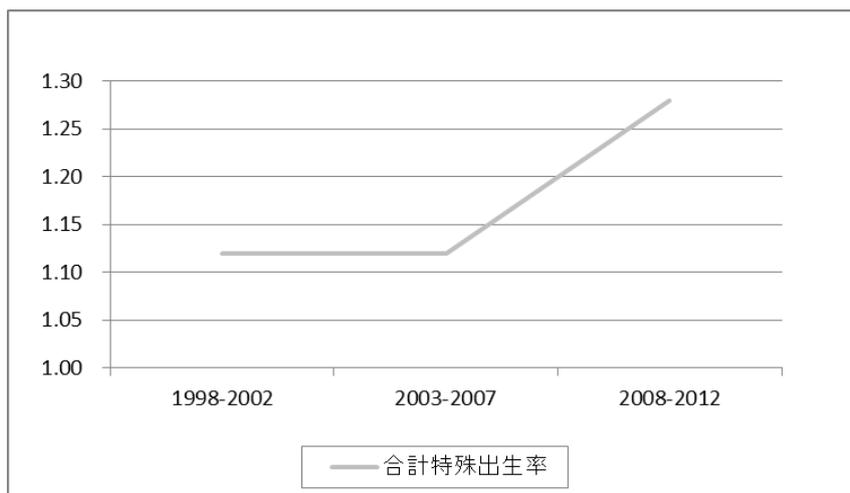
合計特殊出生率をみると、1998-2002 年と 2003-2007 年は変化がなく、2008 年-2012 年では、約 0.15 ポイント増加している。ただし、全国や大阪府と比べて低い。

図表 1-6 箕面市の自然増減と出生数、死亡数



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

図表 1-7 箕面市の合計特殊出生率



出典：厚生労働省「人口動態調査」

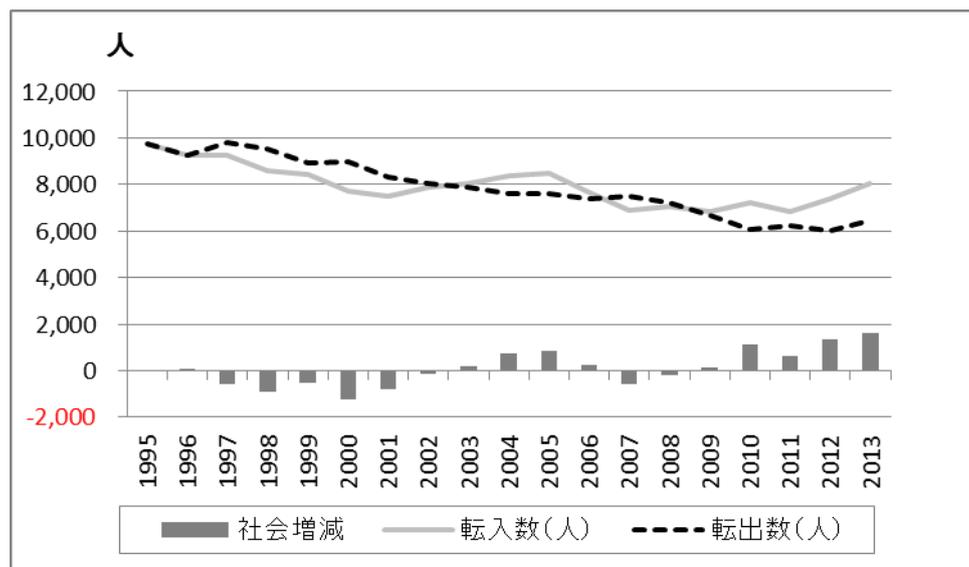
(参考) 大阪府の合計特殊出生率：1.32 (2013 年)、1.31 (2012 年)、1.20 (2003 年)

(参考) 全国の合計特殊出生率：1.43 (2013 年)、1.41 (2012 年)、1.26 (2005 年)、1.29 (2003 年)

③ 市全体の社会動態（転入、転出）

1995年以降の社会増減は、転入超過、転出超過を繰り返しているが、近年では転入超過の傾向が続いている。転出数は1997年をピークに減少傾向にある。転入数は1995年以降、減少傾向にあったが、2012年以降は増加に転じている。

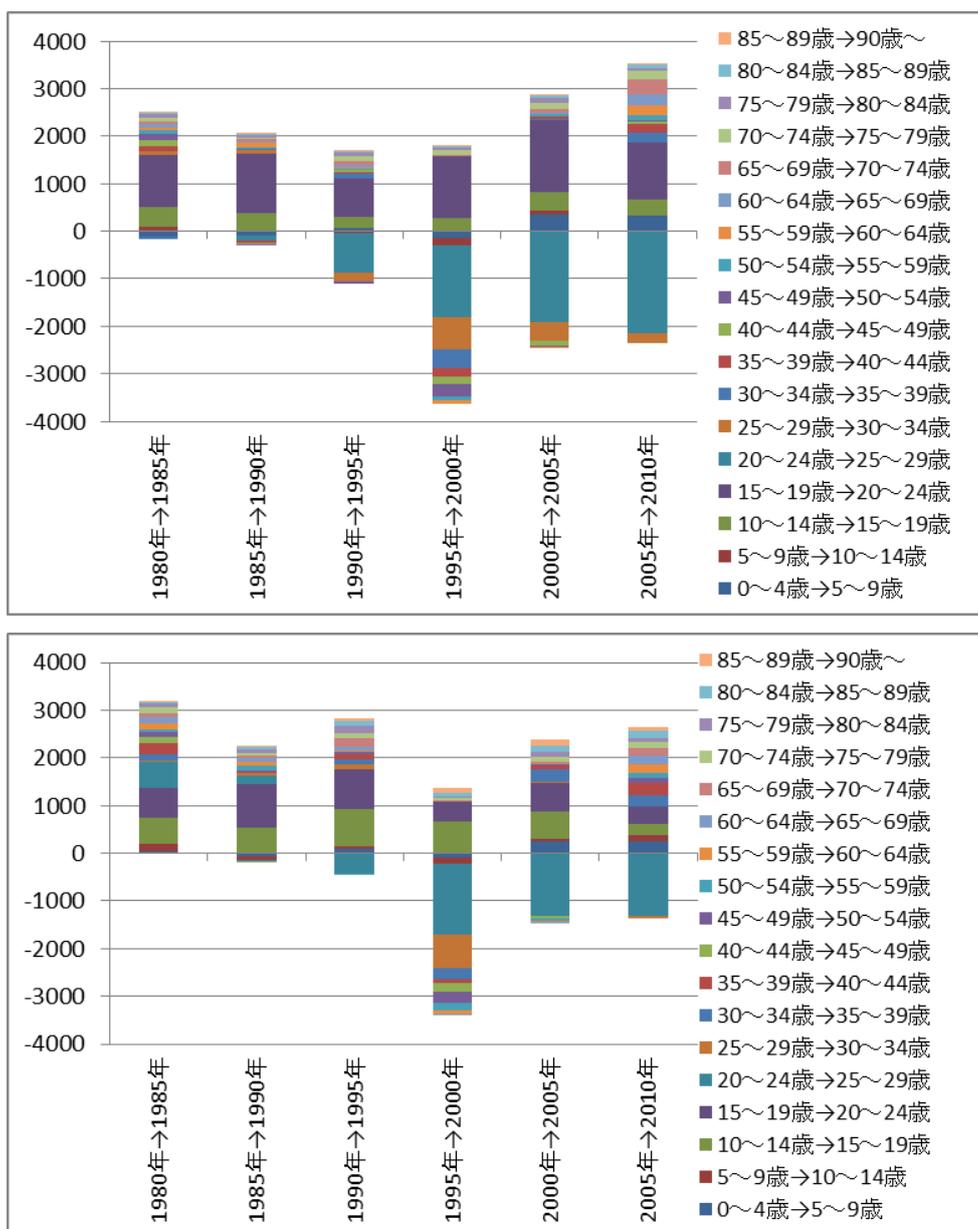
図表 1-8 箕面市の社会増減と転入数、転出数



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

性年齢階級別純転入数をみると、男性女性ともに、1980年から1985年の多くの年齢階級での転入超過に始まり、1995年から2000年まで過半の転出超過に至るまで、純転入数は減少していたが、2000年以降は再び過半の年齢階級で転入超過に転じている。15～19歳から20～24歳での転入、20～24歳から25～29歳での転出が顕著である。進学、就職といったライフイベントの影響が考えられる。

図表 1-9 箕面市の性年齢階級転出入
(上段：男性、下段：女性)



出典：総務省「国勢調査」、

総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

他都道府県、他市町村との転出、転入状況を見ると、大阪府内とくに近隣の北摂地域との転出入が多い。大阪府以外では、兵庫県や東京都との転出入が多い。

図表 1-10 箕面市の転出転入状況（2010年）

		転出	転入			
近畿	大阪府		12,553	14,548		
		北摂	8,533	10,617		
			5,793	7,105		
			豊中市	2,263	2,814	
			池田市	955	1,052	
			吹田市	1,017	1,841	
			高槻市	287	314	
			茨木市	1,022	701	
			摂津市	63	136	
			島本町	22	20	
			豊能町	125	190	
			能勢町	39	37	
			北摂以外	2,740	3,510	
				大阪市	1,512	1,977
				堺市	268	268
				岸和田市	14	36
				泉大津市	25	30
				貝塚市	18	16
				守口市	82	77
				枚方市	152	169
				八尾市	65	85
				泉佐野市	36	24
				富田林市	18	35
				寝屋川市	84	105
				河内長野市	17	36
				松原市	30	40
				大東市	41	39
				和泉市	45	62
				柏原市	24	27
				羽曳野市	11	30
				門真市	44	73
				高石市	15	23
				藤井寺市	14	15
				東大阪市	127	191
				泉南市	7	16
				四條畷市	29	18
				交野市	10	45
		大阪狭山市	20	22		
		阪南市	11	16		
		忠岡町	1	3		
		熊取町	9	14		
		田尻町	1	4		
		岬町	5	2		
		太子町	3	5		
		河南町	2	7		
	滋賀県	321	255			
	京都府	665	648			
		京都市	390	332		
	兵庫県	2,566	2,428			
		神戸市	481	489		
		西宮市	312	280		
		川西市	444	315		
	奈良県	324	397			

		転出	転入
	和歌山県	144	203
近畿以外の都道府県		7,731	6,860
	北海道	184	185
	青森県	25	38
	岩手県	19	22
	宮城県	109	75
	秋田県	13	17
	山形県	10	20
	福島県	14	22
	茨城県	189	70
	栃木県	54	61
	群馬県	56	62
	埼玉県	402	256
	千葉県	636	401
	東京都	1,519	830
	神奈川県	920	501
	横浜市	467	258
	新潟県	48	77
	富山県	77	112
	石川県	94	159
	福井県	108	128
	山梨県	33	20
	長野県	69	78
	岐阜県	91	149
	静岡県	202	171
	愛知県	672	558
	名古屋市	311	299
	三重県	166	232
	鳥取県	42	82
	島根県	63	94
	岡山県	236	282
	広島県	271	457
	山口県	86	146
	徳島県	83	119
	香川県	135	128
	愛媛県	141	206
	高知県	54	96
	福岡県	410	454
	佐賀県	35	50
	長崎県	63	72
	熊本県	86	108
	大分県	65	94
	宮崎県	54	57
	鹿児島県	133	114
	沖縄県	64	57

出典：総務省「国勢調査」

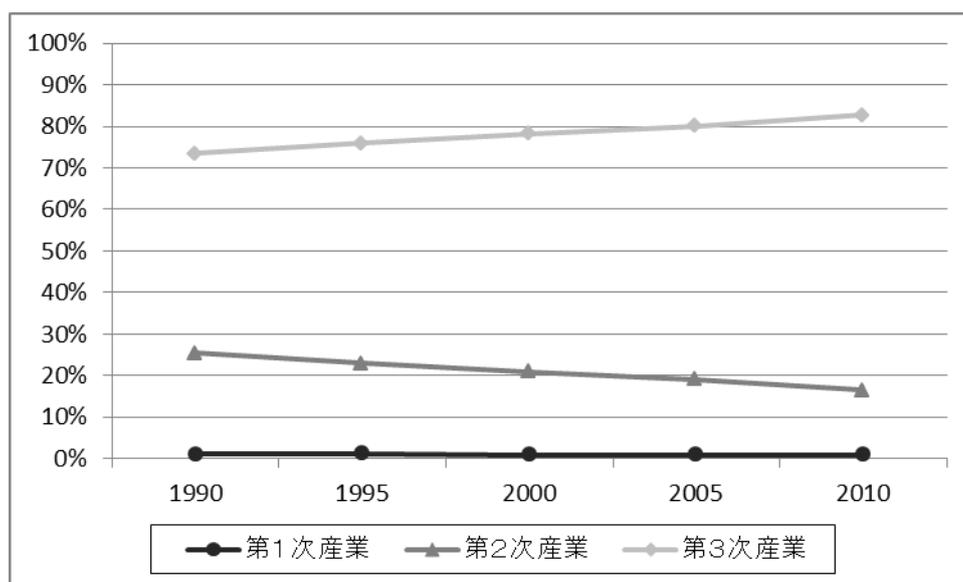
※大阪府の市町村と転出か転入のいずれか上位 10（転出転入の合計、大阪府の市町村含む）に入る市町村を特掲。

(2) 市全体の就業状況

① 業種別就業者数、昼夜間人口比率の時系列の状況

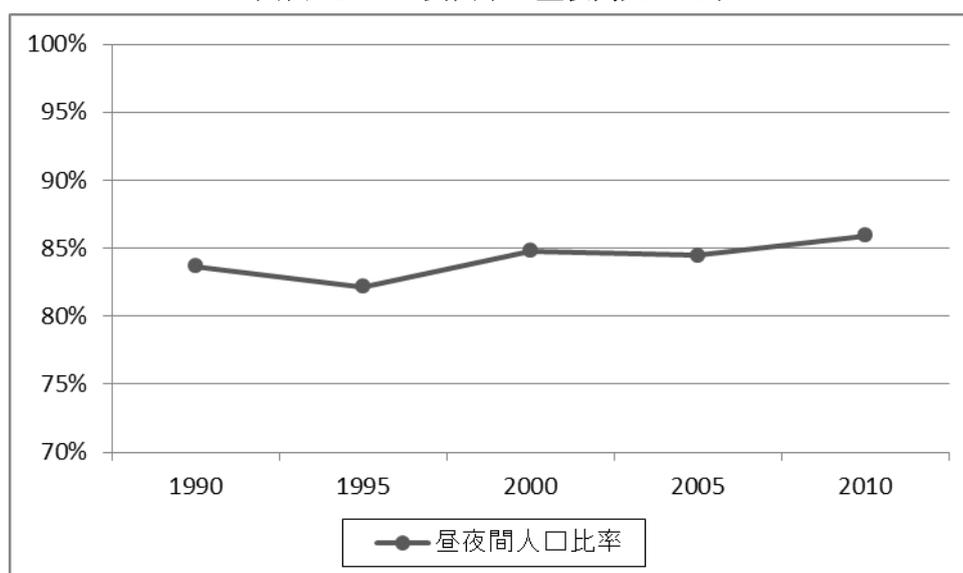
就業者割合をみると、第3次産業が最も高く、増加傾向にある。一方、第2次産業は減少傾向にある。昼夜間人口比率は、85%程度で推移している。

図表 1-11 箕面市の就業者割合



出典：総務省「地域別統計データベース」

図表 1-12 箕面市の昼夜間人口比率



出典：総務省「国勢調査」

② 通勤通学状況の分析

通勤通学状況を見ると通勤・通学での流入は豊中市からが最も多い。一方、流出は通勤では大阪市が最も多い。通学では吹田市が最も多い。

図表 1-13 箕面市の通勤通学状況（2010年）

		流入		流出	
		通勤	通学	通勤	通学
近畿		19,520	2,925	34,001	6,526
	大阪府	15,437	2,193	30,146	5,348
	北摂	12,263	1,679	14,538	4,165
	豊中市	4,698	787	5,134	1,381
	池田市	2,094	235	2,076	440
	吹田市	2,498	339	4,266	1,624
	高槻市	652	58	468	81
	茨木市	1,527	141	2,065	585
	箕面市	-	-	-	-
	摂津市	178	9	416	52
	島本町	35	9	18	1
	豊能町	471	67	50	1
	能勢町	110	34	45	-
	北摂以外	3,174	514	15,608	1,183
	大阪市	1,806	294	13,699	765
	堺市	211	33	269	36
	岸和田市	24	11	16	1
	泉大津市	15	1	16	1
	貝塚市	13	3	5	1
	守口市	94	6	205	15
	枚方市	227	23	146	81
	八尾市	66	13	102	4
	泉佐野市	22	9	29	-
	富田林市	25	8	13	5
	寝屋川市	124	17	143	49
	河内長野市	26	4	9	1
	松原市	28	7	24	10
	大東市	48	7	80	34
	和泉市	34	9	22	6
	柏原市	21	7	21	24
	羽曳野市	23	4	18	10
	門真市	64	8	314	1
	高石市	20	5	6	1
	藤井寺市	14	2	11	-
	東大阪市	171	18	378	97
	泉南市	5	4	16	1
	四條畷市	28	3	17	3

				流入		流出	
				通勤	通学	通勤	通学
			交野市	28	9	16	7
			大阪狭山市	12	2	11	5
			阪南市	10	1	-	1
			忠岡町	2	2	3	-
			熊取町	4	1	4	5
			田尻町	-	-	6	-
			岬町	4	-	2	-
			太子町	-	-	2	-
			河南町	4	2	3	18
			千早赤阪村	1	1	2	1
	三重県			5	5	18	-
	滋賀県			78	42	103	48
	京都府			333	113	579	395
			京都市	149	67	402	323
	兵庫県			3,428	495	3,046	692
			神戸市	298	73	613	247
			尼崎市	376	51	606	24
			西宮市	393	68	364	265
			宝塚市	617	97	297	75
			川西市	967	84	428	11
	奈良県			219	69	87	39
	和歌山県			20	8	22	4
	近畿以外の都道府県			74	42	332	31
	計			19,594	2,967	34,333	6,557

		通勤	通学
(参考)	箕面市常住者(自宅を含む)	56,522	9,334
	箕面市常住者のうち、箕面市内への通勤・通学者	18,891	1,989

出典：総務省「国勢調査」

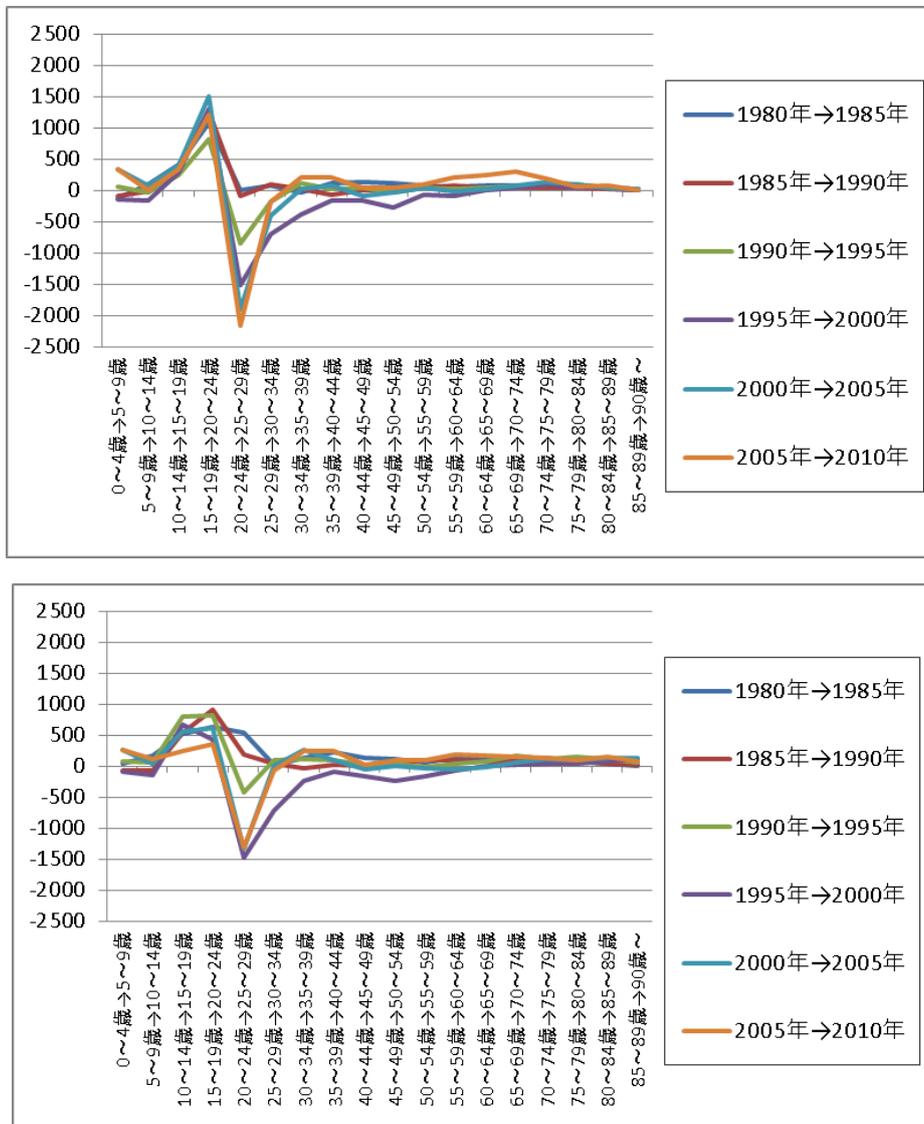
※大阪府の市町村と流入か流出のいずれか上位 10（通勤通学の合計、大阪府の市町村含む）に入る市町村を特掲。

(3) 市全体の定住・移住意向

① 社会動態（純転入数）の時系列の状況

15～19歳から20～24歳での転入、20～24歳から25～29歳での転出が顕著である。特に男性でその傾向を強めている。なお、男性女性ともに、30～34歳階級以降の年齢階級において近年では転入超過の傾向がやや強まっている。

図表 1-14 箕面市の性年齢階級別純転入数
(上段：男性、下段：女性)



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

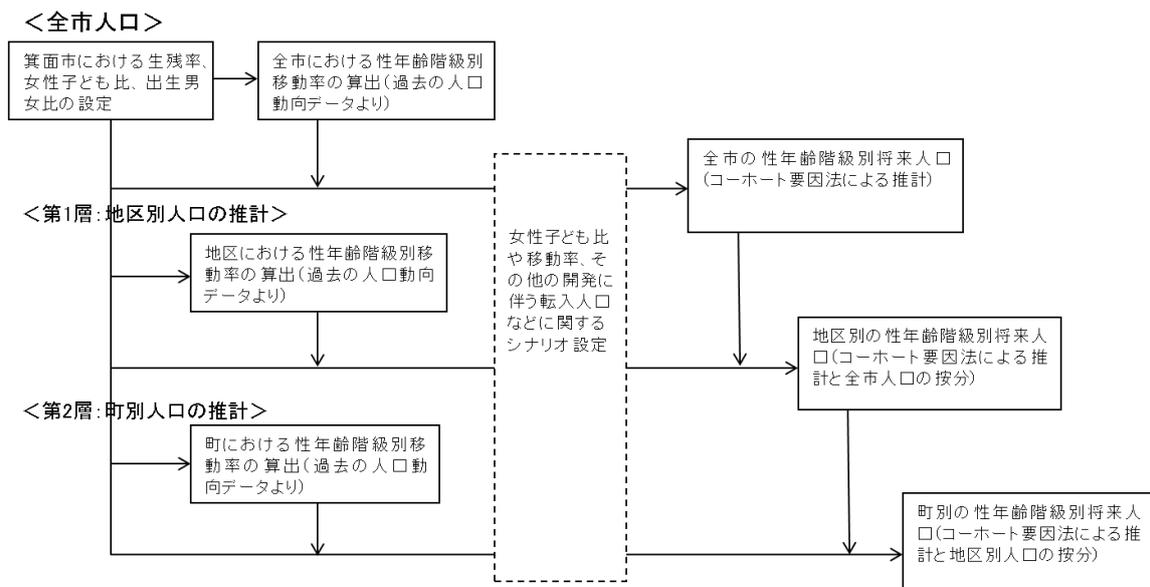
2. 将来人口の推計と分析

国から提供されるデータとワークシート、その他各種統計データ等の活用により、国立社会保障・人口問題研究所及び日本創成会議の推計に準拠した方法をベースに適切な手法を用い、平成72年(2060年)までの将来人口推計(性年齢5歳階級別)を行い、将来の人口に及ぼす出生や移動の影響等について分析を行う。

(1) 推計方法

市全体推計、地区別推計、町別推計と階層的に推計する。地域は総合計画における地域とする。町別は小地域(町丁目)のうち「町」レベルとし、人口が少ない町では安定的な仮定値を得るために集約する。

図表 2-1 推計フロー



図表 2-2 推計方法とデータ

区分		設定の内容
推計方法		コーホート要因法により、各エリア(市、地区、町)別に性・年齢5歳階級別に、5年ごとに推計。
基準年人口		提供された、性・年齢5歳階級別人口(総数、2015年)を用いることとし、外国人を含む総人口の推計を行う。 最下位階級は0～4歳、最上位階級を90歳以上とする。
自然動態	生残率	国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」の仮定値(地区、町では市の値)を用いる。社人研が公表していない期間(「2040年→2045年」以降)は「2035年→2040年」の値と同値とする。
	子ども女性比	社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」の仮定値(地区、町では市の値)を用いる。社人研が公表していない期間(「2040年→2045年」以降)は「2035年→2040年」の値と同値とする。
	出生性比	社人研「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」の仮定値(地区、町では市の値)を用いる。社人研が公表していない期間(「2040年→2045年」以降)は「2035年→2040年」の値と同値とする。
社会動態	移動率	<p>2010と2015年の性・年齢5歳階級別総人口から移動率を求め、横置きする。移動率の算出にあたっては、コーホート変化率(当期当階級人口/前期1階級下人口)から生残率(前期1階級下人口から当期当階級人口)を控除する(移動の抽出に相当)。</p> <p>なお、この方法では生残率が低いことに起因して高齢者の移動率が不安定となるため、「65～69歳→70～74歳」以降の階級では、移動率が-0.1～0.1(閾値は調整可)の範囲に収まらない場合は補正を行う。町、地区、市のいずれにおいても-0.1～0.1の範囲に収まるまで若い年齢階級に遡り、その値を適用する。ただし、遡る限度として「65～69歳→70～74歳」までとする。今回は「65～69歳→70～74歳」の移動率を「70～74歳→75～79歳」以降の年齢階級に適用した。</p> <p>また、小地域の移動率は不安定となることがあるため、地区・町において、2010年→2015年の人口変化が極端な値(男女別総人口の変動のいずれかが20%超(閾値は調整可))となる場合は、一階層上の移動率(極端な値をとる町を除いて算出)を適用する(西武地区:温泉町、東部地区:大字粟生間谷、彩都粟生南、小野原西、北部地区(北部地区は市の値を用いる):上止々呂美、森町中、森町南、森町北)。箕面市の移動率は極端な値をとる町を除いて(ただし、箕面市内々の移動を控除しすぎないように再加算して)算出する。</p> <p>さらに、性・年齢階級別の移動率が計算不可または極端な値が発生する場合(2010年または2015年の性・年齢5歳階級別人口が0、移動率40%超または-40%未満(閾値は調整可))は一階層上の移動率をすべての性年齢階級に適用する。</p> <p>上述の移動率の安定化により、新市街地人口の急増の影響を除外する。将来の新市街地人口の想定については、箕面市提供資料より、5年間の新市街地人口による増加を性・年齢別移動数(当期当階級人口-前期1階級下人口×生残率(前期1階級下人口から当期当階級人口))の構成比で按分する。これを該当する町(彩都粟生南、小野原西、森町中、森町南、森町北)・地区(東部、北部)・市へ加える。森町は本推計では森町中、森町南、森町北に分割したため、これらの町・性・年齢別移動数の構成比で按分した。</p>
その他	市全体推計との整合(コントロールトータル補正)	<p>第1層、第2層の推計値を一階層上の推計値と整合するように補正する。</p> <p>第A層の性別m年齢階級aの人口(補正後)</p> $= \text{一階層上の人口} \times \text{シェア}$ $= \text{一階層上の性別m年齢階級aの人口}$ $\times (\text{第A層の性別m年齢階級aの人口(補正前)} \div \text{全第A層の性別m年齢階級aの人口(補正前)})$

※推計に使用する提供されたデータのうち2010年、2015年人口ともに4月1日時点のデータを使用。

図表 2-3 地区区分と町および人口規模

地区区分 町(集約)	H22.4			H27.4			変動		変動20%超	
	男	女		男	女		男	女	男	女
箕面市	128,902	62,018	66,884	135,063	64,796	70,267	104.5%	105.1%	0	0
変動20%超除く	123,943	59,554	64,389	123,024	58,844	64,180	98.8%	99.7%	0	0
西部	58,044	27,537	30,506	57,307	27,042	30,265	98.2%	99.2%	0	0
変動20%超除く	57,836	27,432	30,404	57,058	26,923	30,135	98.1%	99.1%	0	0
箕面	11,793	5,415	6,378	11,442	5,254	6,188	97.0%	97.0%	0	0
西小路	4,209	2,037	2,171	4,128	2,007	2,121	98.5%	97.7%	0	0
牧落	5,972	2,906	3,066	6,041	2,882	3,159	99.2%	103.0%	0	0
百楽荘	1,403	643	760	1,422	642	780	99.9%	102.7%	0	0
桜井	4,414	2,088	2,326	4,251	2,005	2,246	96.0%	96.6%	0	0
桜	4,294	2,136	2,159	4,226	2,030	2,196	95.1%	101.7%	0	0
半町	6,468	3,109	3,359	6,324	3,030	3,294	97.5%	98.1%	0	0
瀬川	7,277	3,500	3,777	7,495	3,602	3,893	102.9%	103.1%	0	0
新稲	6,514	3,040	3,474	6,303	2,959	3,344	97.3%	96.3%	0	0
桜ヶ丘	5,464	2,544	2,920	5,398	2,497	2,901	98.1%	99.4%	0	0
温泉町	208	105	103	249	119	130	113.4%	126.3%	0	1
箕面公園	27	13	14	28	15	13	115.4%	92.9%	0	0
中部	36,211	17,576	18,635	36,459	17,584	18,875	100.0%	101.3%	0	0
稲	5,446	2,644	2,802	5,537	2,664	2,873	100.8%	102.5%	0	0
萱野	2,076	1,038	1,037	2,312	1,133	1,179	109.1%	113.6%	0	0
西宿	2,099	1,026	1,074	2,149	1,044	1,105	101.8%	102.9%	0	0
今宮	3,184	1,578	1,606	3,261	1,595	1,666	101.1%	103.7%	0	0
外院	2,529	1,227	1,301	2,503	1,240	1,263	101.0%	97.1%	0	0
石丸	2,057	987	1,069	2,027	960	1,067	97.2%	99.8%	0	0
白島	1,999	923	1,077	1,961	925	1,036	100.2%	96.2%	0	0
坊島	4,216	2,041	2,174	4,299	2,089	2,210	102.3%	101.6%	0	0
如意谷	6,105	2,952	3,152	5,635	2,685	2,950	91.0%	93.6%	0	0
船場西	5,264	2,573	2,691	5,573	2,691	2,882	104.6%	107.1%	0	0
船場東	1,237	587	650	1,202	558	644	95.1%	99.1%	0	0
東部	33,354	16,272	17,082	38,647	18,868	19,779	116.0%	115.8%	0	0
変動20%超除く	29,624	14,426	15,198	29,257	14,227	15,030	98.6%	98.9%	0	0
大字粟生間谷	13	7	6	9	5	4	71.8%	66.7%	1	1
粟生間谷東	3,555	1,716	1,839	3,647	1,816	1,831	105.8%	99.6%	0	0
粟生間谷西	8,562	4,106	4,456	8,193	3,921	4,272	95.5%	95.9%	0	0
彩都粟生南	347	170	176	4,967	2,472	2,495	1450.2%	1416.3%	1	1
粟生外院	5,120	2,439	2,681	5,116	2,403	2,713	98.5%	101.2%	0	0
粟生新家	3,410	1,660	1,750	3,264	1,562	1,702	94.1%	97.2%	0	0
小野原東	8,977	4,506	4,471	9,037	4,525	4,512	100.4%	100.9%	0	0
小野原西	3,371	1,669	1,702	4,414	2,164	2,250	129.7%	132.2%	1	1
北部	1,294	633	661	2,650	1,302	1,348	205.7%	204.0%	1	1
変動20%超除く	273	120	153	250	110	140	91.7%	91.5%	0	0
上止々呂美	159	78	81	125	60	65	77.0%	80.2%	1	0
下止々呂美	273	120	153	250	110	140	91.7%	91.5%	0	0
森町中	785	398	387	1,723	866	857	217.6%	221.6%	1	1
森町南	1	0	1	256	121	135	-	-	-	-
森町北	76	37	39	296	145	151	391.9%	387.2%	1	1

※人口は外国人を含めた総人口。

※H22.4の総人口は外国人を按分推計(H24.3の年齢別、H26.3の町別の構成比)し、日本人人口に加算。

(H22時点では開発されていない森町南にも僅かに加算されている点に注意)

図表 2-4 新市街地人口の反映（長期傾向ではなく一時的増加として）

（新市街地人口と転入時期、控除の目安としての市内移動分）

年度	彩都(国際文化公園都市)				箕面森町(水と緑の健康都市)				小野原西			増加人口計	開発地域への市内からの移動
	計画戸数(戸)	戸数累計(戸)	計画人口(人)	増加人口(人)	計画戸数(戸)	戸数累計(戸)	計画人口(人)	増加人口(人)	供給戸数(戸)	計画人口(人)	増加人口(人)		
H18(実績)	80	80	99									0	
H19(実績)	112	192	273	174	30	30	102					174	
H20(実績)	5	197	287	14	127	157	498	396	156	470		410	
H21(実績)	1	198	307	20	106	263	852	354	113	810	340	714	
H22(実績)	181	379	796	489	67	330	1,075	223	113	1,150	340	1,052	
H23(実績)	340	719	1,743	947	76	406	1,335	260	80	1,390	240	1,447	
H24(実績)	461	1,180	3,216	1,473	89	495	1,693	358	80	1,630	240	2,071	
H25(実績)	410	1,583	4,554	1,338	160	583	1,934	241	80	1,870	240	1,819	
H26	270	1,860	5,398	844	104	687	2,275	341	80	2,110	240	1,425	
H27	170	2,030	5,948	550	100	787	2,597	322	80	2,350	240	1,112	
H28	430	2,460	7,328	1,380	100	887	2,927	330	80	2,590	240	1,950	
H29	460	2,920	8,808	1,480	100	987	3,257	330	80	2,830	240	2,050	
H30	180	3,100	9,388	580	100	1,087	3,587	330	46	2,970	140	1,050	
H31	140	3,240	9,838	450	100	1,187	3,917	330	46	3,110	140	920	
H32	120	3,360	10,228	390	100	1,287	4,247	330	33	3,210	100	820	
H33	100	3,460	10,548	320	100	1,387	4,577	330	33	3,310	100	750	
H34	80	3,540	10,808	260	100	1,487	4,907	330	30	3,400	90	680	
H35	30	3,570	10,908	100	100	1,587	5,237	330				430	
H36	0	3,570	10,908	0	100	1,687	5,567	330				330	
H37	0	3,570	10,908	0	100	1,787	5,897	330				330	
H38	0	3,570	10,908	0	100	1,887	6,227	330				330	
H39	0	3,570	10,908	0	13	1,900	6,270	43				43	
H40	0	3,570	10,908	0	0	1,900	6,270	0				0	

出典：箕面市資料

（配分する性・年齢階級：各地域における過去の転入人口（推計）の構成比）

	彩都粟生南	小野原西	森町中	森町南	森町北
男0~4→男5~9	0.085	0.081	0.054	0.012	0.015
男5~9→男10~14	0.034	0.043	0.022	0.006	0.004
男10~14→男15~19	0.014	0.037	0.008	0.000	0.005
男15~19→男20~24	0.011	0.099	0.000	0.001	0.002
男20~24→男25~29	0.024	0.000	0.011	0.008	0.000
男25~29→男30~34	0.077	0.046	0.067	0.017	0.008
男30~34→男35~39	0.097	0.026	0.073	0.021	0.017
男35~39→男40~44	0.070	0.069	0.040	0.012	0.013
男40~44→男45~49	0.040	0.039	0.019	0.005	0.005
男45~49→男50~54	0.017	0.016	0.009	0.003	0.003
男50~54→男55~59	0.010	0.011	0.006	0.001	0.001
男55~59→男60~64	0.007	0.003	0.005	0.003	0.002
男60~64→男65~69	0.009	0.006	0.006	0.001	0.005
男65~69→男70~74	0.004	0.004	0.001	0.004	0.000
男70~74→男75~79	0.002	0.000	0.001	0.000	0.002
男75~79→男80~84	0.002	0.000	0.000	0.000	0.000
男80~84→男85~89	0.001	0.003	0.000	0.000	0.000
男85~→男90~	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
女0~4→女5~9	0.071	0.072	0.046	0.017	0.013
女5~9→女10~14	0.030	0.033	0.018	0.001	0.009
女10~14→女15~19	0.012	0.032	0.009	0.003	0.005
女15~19→女20~24	0.010	0.062	0.002	0.001	0.001
女20~24→女25~29	0.036	0.038	0.020	0.009	0.004
女25~29→女30~34	0.096	0.033	0.077	0.025	0.010
女30~34→女35~39	0.098	0.068	0.060	0.018	0.017
女35~39→女40~44	0.066	0.072	0.045	0.012	0.007
女40~44→女45~49	0.028	0.048	0.012	0.002	0.005
女45~49→女50~54	0.010	0.022	0.004	0.002	0.007
女50~54→女55~59	0.009	0.003	0.005	0.000	0.001
女55~59→女60~64	0.010	0.005	0.009	0.003	0.005
女60~64→女65~69	0.006	0.008	0.007	0.005	0.000
女65~69→女70~74	0.004	0.010	0.001	0.001	0.004
女70~74→女75~79	0.003	0.004	0.002	0.000	0.000
女75~79→女80~84	0.004	0.000	0.000	0.000	0.002
女80~84→女85~89	0.002	0.007	0.001	0.000	0.001
女85~→女90~	0.002	0.001	0.000	0.000	0.000

※移動数=2015年人口-2010年人口×生残率により推計

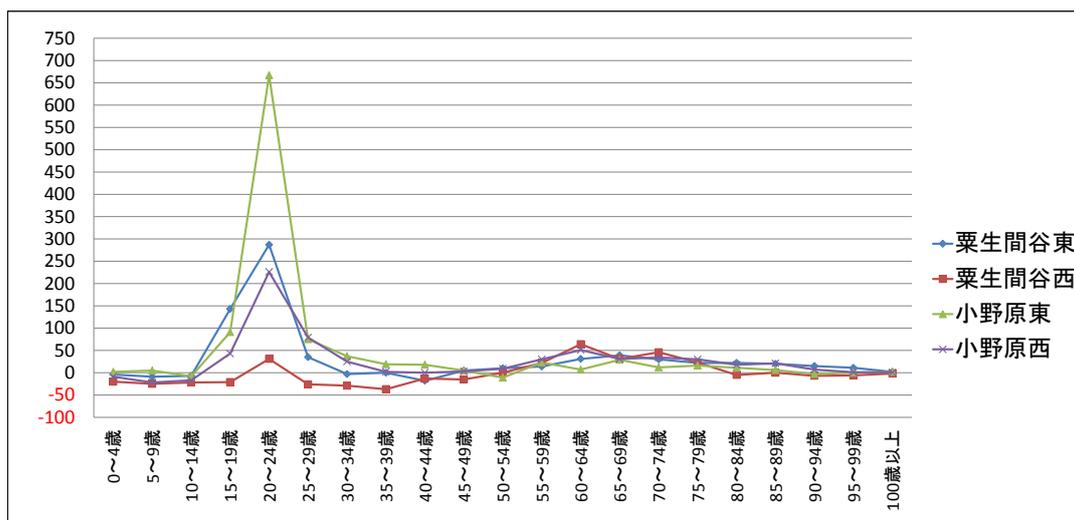
参考：住民基本台帳に基づく人口と国勢調査の人口の差異について

本推計においては、住民基本台帳に基づく人口を用いるが、国勢調査との人口に差異が生じることが起こりうる。特に、学生については住民登録を変更せずに、引っ越すことが想定される。そこで、学生が多いとされる、特定の町丁（粟生間谷東・西および小野原東・西）の人口を平成22年国勢調査の箕面市の人口と、指定区別年齢別男女別人口調（平成22年9月30日現在）を基に確認した。

次に示す図表は箕面市粟生間谷東・西および小野原東・西の平成22年国勢調査から指定区別年齢別男女別人口調を差し引いた差分を表している。年齢別にみると20-24歳の差はどの年齢階級よりも最も大きく、特に小野原東は差が大きい。

本推計においては、15-19歳及び20-24歳の人口については実態よりも過小である可能性があることに注意を要する。

図表 2-5 箕面市粟生間谷東・西および小野原東・西の人口の国勢調査と指定区別年齢別男女別人口調の差分



町丁目別	0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳以上	不詳
粟生間谷東	93	115	144	324	630	206	175	204	211	193	159	224	324	323	257	164	113	73	30	14	4	28
粟生間谷西	251	340	368	367	524	440	488	634	516	430	443	617	991	808	578	311	134	61	33	7	1	38
小野原東	407	455	475	643	1474	693	667	679	655	634	574	508	537	366	218	186	177	118	46	15	5	13
小野原西	222	235	202	231	453	310	297	334	307	222	170	171	224	163	128	104	70	55	18	9	1	14

町丁目別	0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90~94歳	95~99歳	100歳以上
粟生間谷東	97	124	151	181	343	171	178	204	228	198	149	210	293	284	227	142	98	53	15	3	2
粟生間谷西	271	365	390	408	493	466	517	671	529	445	443	595	927	777	532	288	139	81	40	13	3
小野原東	405	450	483	552	807	618	630	660	637	628	585	485	530	337	206	170	166	112	49	15	3
小野原西	231	257	219	188	227	231	272	332	307	219	161	141	173	132	94	74	52	34	11	8	0

(2) 推計結果

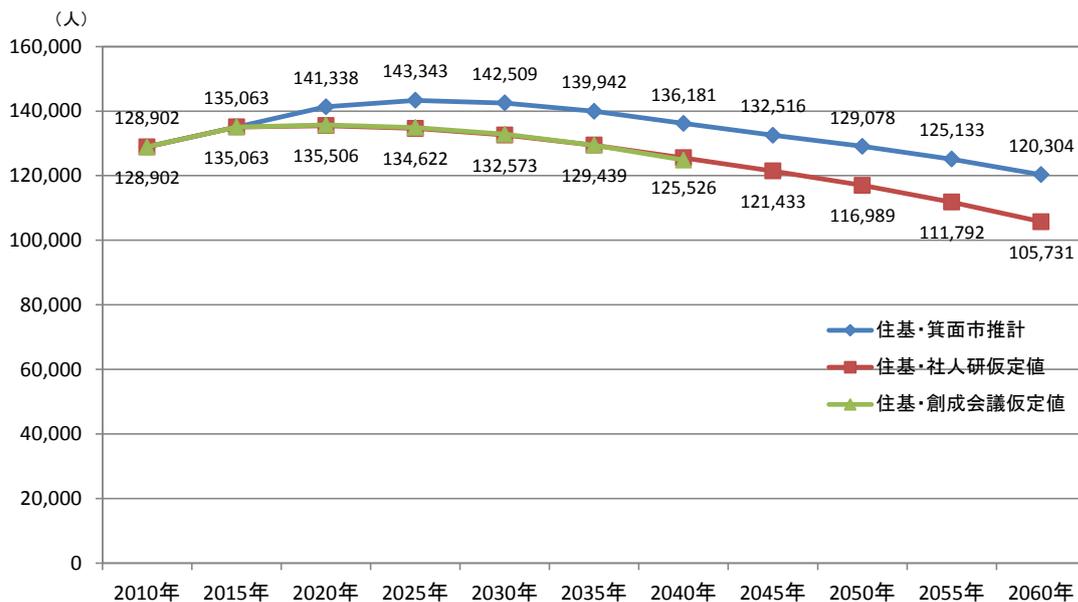
① 人口減少

2000年以降、箕面市の人口は増加し、2015年に13万5千に達している。全国と比べて高齢化率が低く、自然増加が続いている。また、彩都、箕面森町、小野原西といった新市街地に、ファミリー層が転入している。合計特殊出生率が全国平均や大阪府よりも低いものの、日本全国の減少傾向に反して増加傾向にあるのは、この新市街地における社会増加が大きな要因と考えられる。

今後も、新市街地への転入が進めば、箕面市の人口は、2025年頃まで増加し、14万3千人に達する。それ以降は、新市街地の開発が完了し、全国と同様に減少する。

今回の推計人口は、2010年以前の人口動態をベースにしている社人研や日本創成会議の仮定値を使った推計と比べて上振れする結果となっているが、2010年～2015年の人口増加を反映していること、新市街地への転入を想定していることが要因である。

図表 2-6 総人口の推移 (2010年～2060年)

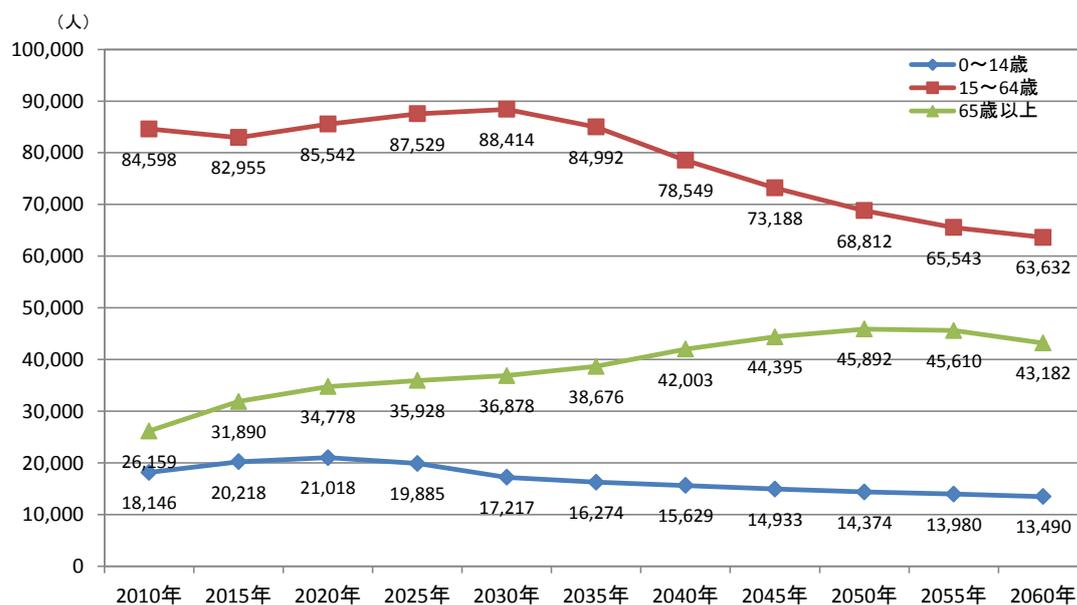


※2010年、2015年は実績。2020年以降推計

② 子育て層の減少

年少人口（0～14歳）は、2010年以降増加し、2015年に2万人に達している。40歳前後の第二次ベビーブーム世代が多いことや、新市街地へのファミリー層の転入が貢献しており、今後も、2020年頃まで増加し、2万1千人に達する。その後、新市街地への転入の減少に伴い、年少人口は減少する。

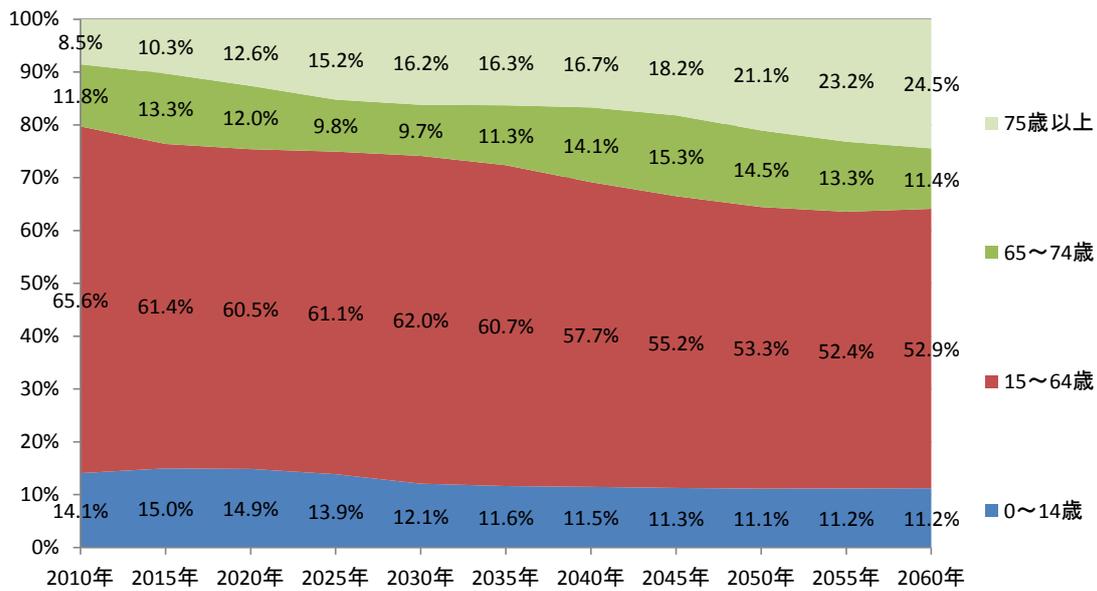
図表 2-7 年齢3階級別人口の推移（2010年～2060年）



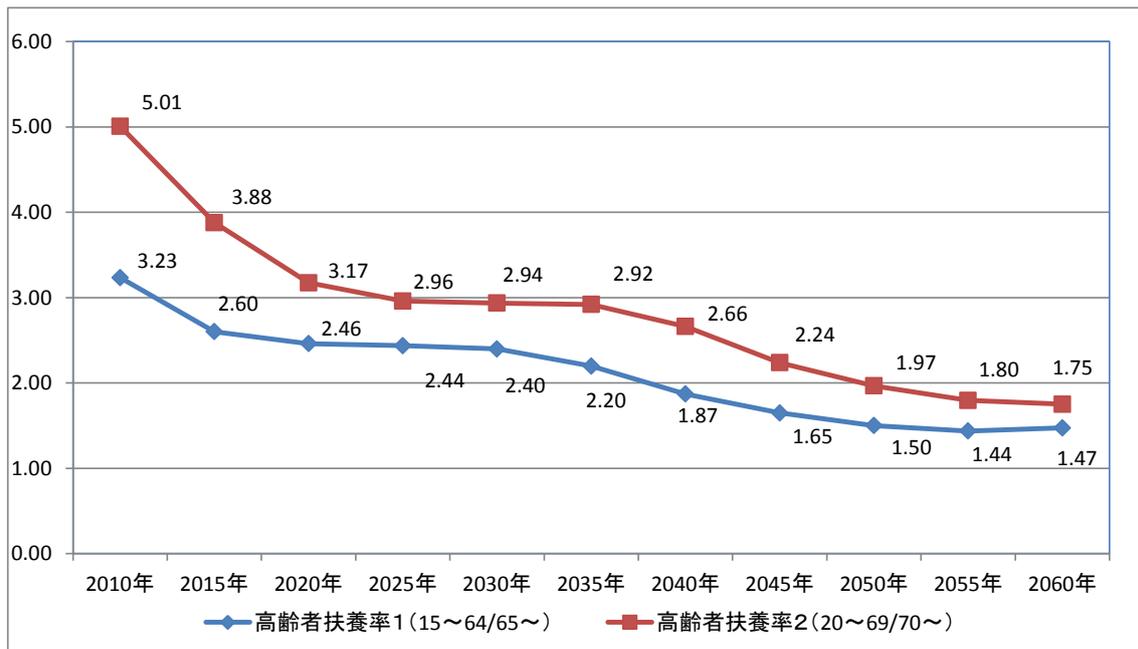
③ 高齢化

全国と比べて、高齢化の進展ペースは遅いものの、30年後（2045年）には65歳以上人口が総人口の3分の1を占める。高齢者扶養率（生産年齢人口に対する高齢者人口比。高齢者1人を現役世代何人で支えるかを示す数値）は、30年後には、1.65まで低下する。

図表 2-8 年齢4階級別人口構成の推移（2010年～2060年）



図表 2-9 高齢者扶養率の推移（2010年～2060年）



④ 人口減少・少子高齢化の影響

最近の人口増加、年少人口の増加は、新市街地の開発による貢献が大きい。北大阪急行延伸等により、今後10年程度は人口の増加が見込まれるものの、それ以降は人口減少に転じ、子育て層も減少する。

人口減少により、労働力の減少や消費の縮小を引き起こし、税収が減少し、公共サービス水準が低下する恐れがある。子育て層が減少すると、活気が失われ、子育て世代を誘因する魅力づくりやブランド発信が難しくなるという悪循環に陥る。

高齢化が進むと、要支援・要介護者数の増加や高齢者扶養率の低下により、現役世代の負担が増加する。また、地域コミュニティの担い手の減少により、地域の自治・管理等に支障をきたす恐れがある。

このような人口減少・少子高齢化の影響は、社会的影響、経済的影響、市財政的影響の側面では、以下のように整理できる。問題の進展に対して、対策を講じなかった場合には、最悪のシナリオとして、地域の人材育成環境の悪化、子育て層の流出、アンバランスな年齢構成の悪循環による住宅都市としての魅力の低下、地域の産業・雇用等の経済循環の仕組みの弱体化、市財政の破綻と公共サービスの維持困難化などの恐れがある。

■社会的影響

- 保育所、学校等の統廃合
- 公共サービス水準の低下
- 子どもの減少（活力を失う）
- コミュニティの担い手の減少
- 要支援・要介護者数の増加
- 現役世代の負担増

■経済的影響

- 消費人口の縮小
- 所得減に伴う消費支出の減少
- 労働力の減少
- 農林業の担い手不足

■市財政的影響

- 税収の減少
- 地方交付税交付金の減少

3. 人口の将来展望

将来展望に必要な要素やデータ等の整理・分析を踏まえ、目指すべき将来の方向を定め、出生率や移動率等の仮定値の設定を行うことで将来の人口を展望する。

(1) 目指すべき将来の方向

箕面市では、第5次箕面市総合計画において「めざすまちの姿と基本方向」を定めており、人口動態に関連するものとして、移住や定住の促進、子育て・教育の支援を図るものが挙げられている。

図表 3-1 第5次箕面市総合計画における人口動態関連施策

分類・テーマ		内容		人口関連
安全・安心でみんながいきいき暮らすまち	みんなで健康づくりを進め、信頼できる地域医療をつくります	市民主体の健康づくりを進めます	市民が自らの健康を積極的に維持・増進する健康づくり運動を市民と行政が連携して広げることによって、心身の健康づくりや介護予防に対する市民意識の向上を図るとともに、地域の特色を生かした健康づくりを進めます。また、乳幼児期から高齢期までのライフステージに応じたきめ細かな健康相談、健康教育、健康診査などの環境整備に取り組むとともに、その根幹となる食育の推進に努めます。	子育て・教育
子ども大人も育つまち	人と人が認め合い、受け入れあう豊かなまちをつくります	外国人市民の人権が尊重されたコミュニティの醸成に努めます	外国人市民の人権を尊重し、行政サービスと社会環境の整備、「言葉の壁」の解消、相談体制の充実、市政参画の促進を図ります。また、多文化共生社会※の実現に向け、日本語学習の促進、渡日の子どもたちへの支援、人権尊重のための学習と地域活動を進めます。国際交流については、市民主体の地域間交流を進め、市民活動団体、企業などとの連携を図ります。	移住定住促進
	子どもたちを地域ではぐくむまちづくりをめざします	子育てへの支援と子育て環境の整備を図ります	子育て支援センターなど家庭での子育てを支援する場を充実し、ゆとりをもって子育てができる生活環境づくりを進めます。また、支援が必要な子どもと家族に対する支援体制の充実を図り、家庭における子育ての支援と地域における子育て環境の整備に取り組みます。	子育て・教育
		保育サービスの充実と多様な保育ニーズに対応します	保育所の待機児童解消に向けた保育枠の拡大や、多様化する保育ニーズに対応するため、延長保育など保育所の保育サービスを充実させるとともに、幼稚園での預かり保育や長時間保育を推進し、就学前保育の保障を図ります。また、学童保育も利用数の伸びに応じた入所枠の確保を図ります。	子育て・教育
		子どもの居場所、活動拠点の整備・充実と自由な遊び場づくりを進めます	子どもの居場所や活動の場づくりを進めるとともに、保育所・幼稚園・学校・生涯学習施設・コミュニティセンターなどを利用して、子どもの自由な遊び場と時間を確保します。また、子育てサークル、子育て世帯への情報提供により、輪を広げる機会をつくります。	子育て・教育
		社会体験や地域交流の充実に取り組み、子どもの育ちをはぐくみます	子どもの伸びやかな成長を願う市民の団体活動を支援し、子どもを対象とした各種イベントを地域に合わせて展開します。また、子どもたちのさまざまな可能性を導き、健やかな成長をはぐくむため、多様な自然体験・社会体験ができる活動の場や機会を増やすとともに、子どもの意見をまちづくりに反映する機会の確保に努めます。また、子どもたちが伸び	子育て・教育

分類・テーマ		内容		人口関連
			やかに育つ環境づくりや問題行動への適切な予防対策などには、家庭はもとより、学校や地域での取組が必要であり、その連携体制を強化するとともに、進路相談、就労のための情報提供など、自立に向けての支援を行います。	
	子どもたちの生きる力・つながる力をはぐくむ教育を進めます	一人ひとりを大切にしたいきめ細かい教育に取り組みます	すべての中学校区で小中一貫教育に取り組み、少人数指導・習熟度別指導など指導方法を一層、工夫します。また、教育課程の創意工夫・改善をするとともに、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着や、学校図書館を活用する授業、食育に関する授業など、自ら学ぶ意欲と喜びを喚起するような個性重視の授業改善に取り組みます。 併せて、子どもが自ら問題を発見し、自分の考えを他の人に伝え、他の人の考えを理解する教育に努めます。	子育て・教育
		地域ぐるみで子どもたちの教育に取り組みます	校長のリーダーシップのもと、自主的・自律的・組織的な学校経営・運営を推進します。全小・中学校に設置されている学校協議会を積極的に活用し、保護者や地域で学習活動をしている住民などの支援を得て、ホームページや学校だよりなど学校の取組や実践を発信する機会を増やします。学校教育活動が保護者や地域住民のニーズなどを的確に把握し、反映しているか、学校教育自己診断結果に基づいて分析し、保護者・地域住民との協働のもと、学校経営・運営を充実します。	子育て・教育
		教育環境の整備と教職員の資質向上に取り組みます	既存の教育施設などを最大限活用して校舎・設備・教材を整備し、安全・安心で快適な学校づくりを推進します。また、教職員の意識改革や資質向上を図る研修や各学校における教育活動を支援するため、教育関連の情報の収集・発信や教育相談など、教育センターの機能を充実します。	子育て・教育
「箕面らしさ」を生かすまち	住宅都市として培われてきた落ち着いた安心な住まい・まちなみ景観を大切にします	美しいまちなみを守り育てていきます	景観計画及び都市景観条例を適切に運用し、これまではぐくまれてきた地域特性を生かしつつ、景観重要建造物などの良好な景観資源を適切に保全・活用し、魅力的なまちづくりを進めるとともに、市街地の山すそ部を「山すそ景観保全地区」とし、建築物のデザインや色調を山なみ景観と調和するよう誘導するなど、山なみと調和したみどり豊かで魅力的なまちづくりに取り組みます。 また、市民・事業者・行政の協働で、地区の特性に応じた魅力あるまちづくりを推進するため、NPO や景観整備機構などと連携して、景観に対する市民、事業者の意識高揚を図るとともに、市民主体による地区の住環境に関するルールづくりを推進します。	移住定住促進
		安心して住み続けられる住まい・まちづくりを進めます	バランスのとれた地域社会の形成のため、高齢者世帯や障害者世帯、子育て世帯など、多様な世帯が安全に安心して住生活を営める環境を整備します。また、これまでに造られてきた良質な住宅ストックを有効に活用するため、空き家の有効活用や、現在居住している住宅の耐震化など適切な維持管理や改善ができる環境を整備します。 地域が持つ魅力を生かしながら課題を解消していくため、市民、事業者、行政がそれぞれの特徴や能力を発揮できるよう、的確な役割を示すとともに、情報提供を行う仕組みを構築し、住生活を持続的に支える取組を進めます。	移住定住促進
	旧街道などの歴史や新しい市民文化を後世に伝えていきます	箕面の歴史・文化を学び、子どもたちに伝えていきます	箕面の歴史・文化について学び、誇りを持って子どもたちに伝統を守ることの大切さや貴重な価値について正しく伝えていけるよう、市内各地に残る伝統的な行事を紹介していきます。また、文化財や歴史資料の収集・保存を進め、郷土資料館の企画展などの取組を通して、知り、触れる機会を充実させます。	移住定住促進、 子育て・教育

分類・テーマ		内容		人口関連
	市民の自主的な活動が新しい箕面文化として定着するよう支援します	箕面の歴史・風土をもとに、伝統に根ざした市民の自主的な活動が新しい文化を創造し、箕面文化として定着するよう取組を行います。その新しい箕面文化が、郷土の誇りとして長く受け継がれるよう、人・団体・活動の輪を広げるための情報提供や、さらなる発展に向けた仕組みづくりを行います。		移住定住促進
箕面の滝や紅葉に加え、新たな魅力の創出によって観光や産業を活性化します	四季を通じて魅力ある観光地とします	紅葉の時期だけでなく、四季を通じて観光客を誘致するため、豊かな自然や歴史を背景に地域資源を再評価し、新たな観光スポットや回遊コースを創出します。 市内各所に点在する地域資源に興味を持ってもらうことにより、観光地としての魅力や価値を再認識してもらいます。また、事業者は来訪者に気持ちよく過ごしてもらうため、おもてなしの心を醸成し、市全体が一体となっておもてなしすることができる環境を整えます。		移住定住促進
箕面らしい都市魅力をさらに高め、誰もが住んでみたいと思うまちをつくりたい	「箕面らしさ」を全国に発信します	かやの中央や船場地区、箕面森町や彩都をはじめとする各地区の新しいまちづくりの取組など、市民・事業者が行う箕面の魅力を高める取組を支援し、報道機関などへの情報提供活動を強化するとともに、市外の各種イベントへの参加などを通じて、新たな都市の魅力を積極的にPRします。また、市内の伝統行事、名所旧跡や物産など既存の地域資源のPRとともに、中心市街地の活性化の取組を支援します。		移住定住促進

これらの施策が進展することで、人口動態において、以下の効果があらわれると期待される。

図表 3-2 第5次箕面市総合計画を受けた人口動態の変化

施策分類	人口動態における影響	箕面市における具体例
移住定住促進	新市街地人口（特定時期、特定地区への純転入数）の増加	かやの中央や船場地区における新駅効果や土地活用
	純移動率の向上	主に関西圏、西日本圏からの転入
子育て・教育支援	育児世代の純移動率の向上	
	児童数の増加	箕面市全体で児童の増加（転入、出生）